報道資料

平成15年9月2日
総務省

マイクロソフトWindowsの脆弱性を狙ったワームによるダイヤルアップ接続への影響

Microsoft Windowsの脆弱性を利用したワーム（通称「Blaster（ブラスター）」（亜種を含む。））により、ダイヤルアップ接続によるインターネット利用において、長時間にわたり回線が接続されたままとなるなどの影響が発生しているとの報告を受けています。

総務省では、このような状況を踏まえ、インターネットの業界団体であるテレコムサービス協会及び日本インターネットプロバイダ協会などを通じ、ＩＳＰに対し、ホームページやメール等を通じて、加入ユーザに対し適切に周知・注意喚起するよう要請いたしました。また、総務省ホームページ（http://www.soumu.go.jp）において、一般利用者に注意喚起することとしています。

1 影響の具体的内容

ダイヤルアップ接続によりインターネットを利用している場合に、自動切断機能（一定時間通信が行われない場合に、自動的に通信を切断する機能）が適切に働かず、自らのパソコンがワームに感染することにより継続的にパケットを送信したり、ワームに感染した外部パソコンから継続的にパケットを受信することにより、回線が接続されたままの状態となり、通信料金が課金されてしまう。

2 必要となる対策

1) パソコンのウィルスチェック等

Windows XP及びWindows2000を利用している場合は、マイクロソフト等のサイトにアクセスし、修正プログラムを適用するなど、ウィルス対策を実施する。

2) 接続の設定等

パソコン、ダイヤルアップルータ等の自動切断機能を利用している場合は、手動切断への設定変更等を行う。

（連絡先）
総合通信基盤局　データ通信課　インターネット戦略企画室
担当：吉田補佐、中越専門職
電話：(代表)０３－５２５３－５１１１
(内線 ５８５４)
(直通)０３－５２５３－５８５４
総合通信基盤局　消費者行政課

担当：中溝補佐、大岐専門職
電話：(代表)０３－５２５３－５１１１
(内線 ５８４７)
(直通)０３－５２５３－５８４７